

## 魯迅と藤野先生の関係

### その出会いと惜別

魯迅が仙台に留学した頃、日清戦争の勝利もあり中国軽視の風潮があった日本で、藤野先生は儒教などの漢学を貴び、この教を伝えた道徳的先進国からの学生として、魯迅に敬意を表し丁寧に導きました。先生が言葉の不自由を補い平等に学べるようにと続けたノート添削を、魯迅は「小さくは中国のため、大きくは学術のため」と述懐しています。しかし「中国人の体より先ず精神を治す」と魯迅は進路を文学に転じました。別れに際し、先生は「惜別」と書いた自身の写真を贈ります。



医学専門部 藤野教室

写真提供:東北大学史料館

### 心中の恩師と共に 文学で戦う魯迅

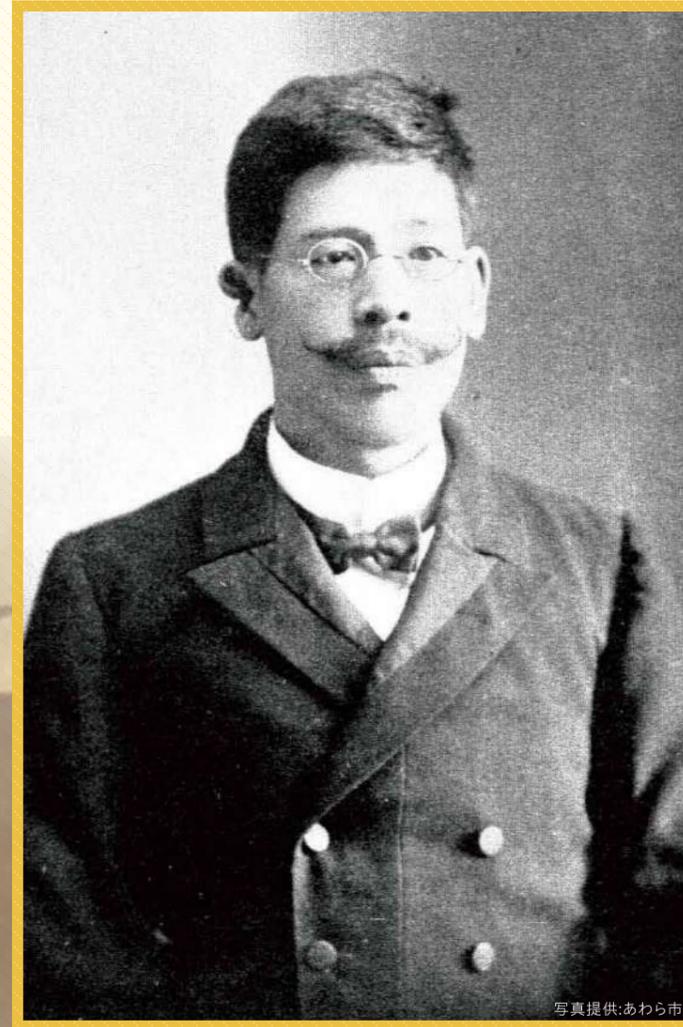
藤野先生のもとを去り二十余年、世界大戦や清朝滅亡の混乱のなか、母国の存亡・民の将来を憂いペンで戦う魯迅の心の中に先生は良心と勇気を奮い起させる存在として宿り、その写真はずっと、東の壁(日本の方角)に、机に向けてかけられていました。

### 庶民のために生きた藤野先生

後に故郷福井に戻り、一介の医者として「医は仁術」を貫いていた藤野先生の存在は、文豪・魯迅が『藤野先生』を発表しなければ世界に知られることはなかったでしょう。教え子の活躍を喜びながらも自ら名乗り出ることはせず、日中の和平を願いながらその生涯を閉じました。

## 地MAP

### ゆかりの地



写真提供:あわら市

# 藤野 巖九郎

海を越えて巡る「仁」の心

### 魯迅

## 魯迅と藤野先生の歩み

### 藤野先生



## 文豪・魯迅の“終生の恩師”

小説『藤野先生』に描かれた魯迅と、「藤野先生」こと藤野巖九郎の師弟関係。魯迅が先生の前で学んでいたのはたった1年半。その後、会うことはないふたりでしたが、魯迅は藤野先生を生涯師と仰ぎました。後に故郷福井にもどり地域医療に生きた藤野巖九郎。ゆかりの地を辿りながら、先生の生涯と魯迅とのエピソードを紐解きます。



### 1 藤野巖九郎生誕之地

えちぜん鉄道三国芦原線本荘駅から徒歩17分(約1.2km)の生家跡には「藤野巖九郎生誕之碑」があり、向かいに菩提寺「福円寺」があります。車で訪れる際は福円寺の駐車場を利用可能(要事前連絡)です。  
※敷地内には立ち入らないようご注意ください。  
場所:あわら市下番



### 2 藤野巖九郎碑 (あわら市下番)

1980(昭和55)年、有志により「藤野巖九郎先生顕彰会」が設立。同年、生誕地近くに魯迅の息子・周海嬰氏揮毫の「藤野巖九郎碑」が建立されました。除幕式には周海嬰氏夫妻や藤野家関係者が参列しました。  
場所:あわら市下番8-11-1



### 3 龍雲寺 (師・大同野坂源三郎墓所)

巖九郎は幼少期に丸岡町平章小学校と三国町龍翔小学校に在籍しましたが、福井藩校出身の野坂源三郎の塾でも四書五経などの漢学を学びました。あわら市龍雲寺には恩師の野坂源三郎の墓があります。  
場所:あわら市中番9-1  
※「大同」は野坂先生が漢詩を読む際の雅号(ペンネーム)。ちなみに藤野先生の雅号は「為庵」。



### 4 龍翔小学校跡地

巖九郎が学んだ頃の龍翔小学校校舎は高台の上にあります。1914(大正3)年に取り壊されましたが、上西区にある山車格納庫の奥の階段を登ると、その跡地があり、今でも「龍翔小学校跡」と記された碑が残っています。  
場所:坂井市三国町南本町4丁目

### 12 藤野巖九郎碑 (福井市足羽山)

あわら市や坂井市三国町から離れた福井市の足羽山にあり、魯迅と深い関わりのある方々が建立に携わっています。1964(昭和39)年に建てられ、「惜別」の文字は北京博物館にある巖九郎が魯迅に贈った写真の裏に描かれた直筆の文字が使用されています。背面の碑文は、魯迅の愛弟子であり「藤野先生」を最初に翻訳した中国文学者、増田渉によるものです。土台の「藤野源九郎碑」の揮毫は、魯迅の教え子であり二番目の妻である許広平によるものです。  
場所:福井市足羽上町150



## 藤野巖九郎 ゆかりの地 MAP



魯迅に注ぎつづけた優しさと、彼の祖国・中国への敬愛の念。藤野巖九郎の心は故郷福井(あわら市・坂井市)で育まれました。ゆかりの地とともに、藤野巖九郎の人生に思いを馳せましょう。

郷里福井を離れて

進学し愛知医学校を卒業した巖九郎は、母校の教授、東大医学部での研究、仙台医学専門学校教授とキャリアを重ね、周樹人(後の魯迅)に出会いました。一年半の交流後「惜別」と書いた写真を贈り別れます。10年後、巖九郎は病身の妻を伴い郷里に戻ります。



### 11 藤野巖九郎記念館

晩年を過ごした三国町宿の旧宅は、1981(昭和59)年に「あわら市文化会館」横へ移築され、さらに平成23年にあわら温泉「湯のまち広場」へ移されました。記念館内には書籍や医療器具、書簡などの貴重な遺品が展示されています。  
場所:あわら市温泉1丁目203



### 10 通勤で使った本荘駅 (三国宿↔あわら市中番)

晩年、巖九郎は三国とあわらの診療所を列車(旧三国芦原電鉄。昭和17年に京福電気鉄道に合併)で往來していました。最終駅・東尋坊口から海に向かって坂を下れば藤野先生居宅跡です。1928(昭和3)年に開設された本荘駅(現えちぜん鉄道三国芦原線)は国の登録有形文化財に指定され、藤野先生が見ていたままの当時の姿を残します。  
場所:あわら市中番15-1



### 9 菩提寺 福円寺

巖九郎生誕の碑の向かい側に、菩提寺福円寺(真宗大谷派)があります。本堂の後ろ側に藤野家のお墓があり、ここで巖九郎は静かに眠っています。毎年、福円寺では命日の8月11日に「惜別忌」として藤野巖九郎先生御命日の集いを開催しています。  
場所:あわら市下番19-2



### 7 帰郷後、開業の藤野医院

巖九郎はあわらで兄の診療を手伝いますが、妻が亡くなります。悲しみをこえて三国出身の女性と再婚、これを機に三国で診療所を開業しました。しかし1年後に兄が急死、再びあわらに戻り兄の後を継ぎました。



### 8 晩年の居宅・診療所

あわらで10年診療を続けた巖九郎でしたが、成人した兄の子供たちに診療所を譲り、自身は再び三国に診療所を開業します。居宅も三国に移しますが、今まで診てきた患者のために中番にも診療所を開き、電車で二つの診療所を行き来します。  
場所:坂井市三国町宿

### 6 平章小学校

巖九郎は、生家から約10km離れた丸岡町平章小学校にも在籍していました。ここは丸岡藩の藩校・平章館の流れを汲む小学校です。  
場所:坂井市丸岡町霞町2丁目41

### 5 坂井市龍翔博物館

1879(明治12)年に三国町に建てられた龍翔小学校は、全国でも珍しい五層八角形の木造校舎で「こうもり傘学校」とも呼ばれました。当時の外観を再現し建てられたのが坂井市龍翔博物館です。坂井市の歴史を中心に楽しく親しみやすい展示を行っています。  
場所:坂井市三国町緑ヶ丘4丁目2-1

